

、令和5年度 6月全校集会

令和5年6月8日（木）



おはようございます。

季節は梅雨に入り、先日の豪雨、そして、寒暖の差が激しい日々が続いていますが、皆さん、体調はどうか？体調管理は人任せではどうにもなりません。しっかりと体調を管理できるように各自でしっかりと取り組んでください。

さて、4月から今日に至るまで、様々な学校行事がありましたが、その時のことを振り返って、当時の状況や気持ちを具体的に話すことはできますか？当時、自分がどのように思ったのか、はっきりと説明できる人もいれば、ただ「楽しかった」で終わる人など、様々でしょうが、そのような違いが生じるのはなぜでしょうか？感じ方は人それぞれだからとも言えるかもしれませんが、その行事に臨んだ時の、その人の思いや取り組んだ姿勢が経験としてその人の心に刻まれたかどうかはその要因ではないのかと私は考えます。例えば、友人の誕生日や個人的なイベントの際、相手を喜ばせようと計画し、実行する。その結果、相手がとても喜んでくれた。すると、その経験が蓄積され、その後のその人の行動などに影響を与えることとなる。そういうことなのだと思います。今日は生徒それぞれの取組みがその後の高校生活にどのように生きてくるのかについて、思っていることを述べます。

私は先日、総体に出場した選手の皆さんを応援しながら、試合後の選手の様子を見て、考えることがありました。嬉々とした表情の生徒、悔しさを露わにしている生徒、正に様々な生徒の表情と出合いました。その時、この表情の違いはどこから来るのだろうか？そして、彼らの表情はこれからどのように変化してゆくのだろうか？という疑問が脳裏を過りました。当然、選手各々が目標を掲げ、努力を続けてきたはずで、その思いの強弱が表情に違いを生むのだろうか？それとも、試合の勝敗が全てなのだろうか？いずれにせよ、彼らの表情が輝かしいものへと変化して行ってもらいたいとその時は強く思いました。

では、どうすれば表情が輝かしいものへと変わって行くのか。そのヒントになることを先日目にすることができました。皆さんもよく知っていると思いますが、将棋の藤井聡太七冠が「名人」を獲得した時に色紙に記した「温故知新」という言葉と、その時の藤井七冠のコメントでした。彼は「自分としても昔の棋士

の方の将棋を、今までは、なかなか並べたりする機会も少なかったのですが、少しずつそういったことも目指していけばいいのかな、という気持ちもありました」と述べていました。将棋の対局を終えた彼に常に共通する姿ですが、将棋の高みを究めても、なお、現在の自分に満足したり、奢ったりすることなく、謙虚に新たなものを追い求めようとする姿勢が、二十歳にして、凜とした風格を形作っているのだと感じました。

現在の自分に謙虚に向き合い、「ダメだ」とか「これでええやろう」とかではなく、「今の自分を少しでも超えて行こう」と強い思いをもって取り組むこと。その積み重ねが「自信」となって、その人物の輝かしい表情に繋がって行くのだと考えます。本校の皆さんも、是非、そのような思いを抱いて。歩み続けてもらいたいと思います。輝かしい表情をした皆さんに出会えることを期待して、本日の講話を終わります。